

学校運営協議会だより

令和6年3月29日発行 第3号

第3回紋別地区特別支援学校学校運営協議会を、令和6年2月27日(火)、紋別養護学校で開催しました。
3校による「第2回の熟議を踏まえた各校の取組」、「令和5年度学校評価」、「令和6年度の学校経営方針」の説明の後、全委員が2グループに分かれ「学校評価を踏まえた次年度の学校経営方針について」、「学校運営協議会の今後の在り方について」の2つのテーマで活発な協議が行われました。



各学校からの説明（概要）

《紋別高等養護学校》

- 現場実習先や就労先の拡大に必要な地域との連携のあり方を発信する準備を進めている。
- 「カリキュラムブラッシュアッププロジェクトチーム」を発足し教育課程を見直すとともに、「ゼロカーボン」や「フードロス」など今日的なテーマに重点的に取り組む。

《紋別養護学校》

- もんべつ流氷まつりでの氷像展示、砂入りペットボトル配付会など、地域の方の協力により新たな教育活動を展開できた。
- 『対話』と『協働』をテーマとし、育成を目指す資質・能力を「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力、人間性」の三観点に改訂する。

《紋別養護学校ひまわり学園分校》

- 情報発信を重点とし、町内の教育センターや遠軽「道の駅」で作品展を開催するなど、分校を多くの方に知ってもらう取組を行った。
- 児童生徒を第一に考えた「つながり」を重視し、各方面との連携・協働を通して、「チーム学校」づくりに取り組む。

協議の概要 《委員からの主な御意見など》

①学校評価を踏まえた次年度の学校経営方針について

- ・ 3校の学校経営方針について承認する。
- ・ 各学校の教育活動を実際に見たり、話を聞いたりすることで理解が深まるので、行事や学校公開等の情報を積極的に発信する必要がある。
- ・ 学校と地域の連携協力のきっかけづくりや継続のため、キーマンとなる地元の人材が必要である。
- ・ 教育委員会など行政機関を効果的に活用することで、地域の様々な活動やサークル等で活躍する人材とつながることが可能である。
- ・ 児童生徒や教職員が地域のイベントに参加することにより、特別支援学校の存在や役割等について地域の認識を高めることが大切である。
- ・ 運動会等に地域の方も参加できるとよい。
- ・ 教育活動の振興のため、後援会の役割は非常に大切であり、学校の内外から情報を発信することで後援会活動をより強化する必要がある。
- ・ 特別支援学校のことをもっと知ってもらうための情報発信が必要である。
- ・ いじめの認知や対応の状況について知りたい。

②学校運営協議会の今後の在り方について

- ・ 3校合同開催の継続により、つながりが広がると考える。
- ・ 次年度第1回の協議会で、キーマンの活用や地域のイベントへの学校の参加について話し合い、実際に行動を開始することが大切である。
- ・ 地域のイベント等の情報を学校と共有し、学校としてできることを検討する必要がある。
- ・ 学校は、年間指導計画に基づいて活動しており年度途中の予定変更が難しいため、新規の取組は早めに検討し無理のない計画を立てる必要がある。
- ・ 地域が学校に連携協力できることを知るために、学校から地域へ相談や要望を伝えてほしい。
- ・ 新聞社等を活用し、学校の取組を地域に積極的に発信することが大切である。
- ・ 先生方とのつながりができてきたと感じる。
- ・ 今後、PTAがどのように地域と関わればよいかについて、具体的に考えていきたい。
- ・ 生徒の就労や地域生活に向けて、関係者と学校の関係性を深め連携を図るため、生徒の卒業後の状況等について情報共有することが大切である。

本年度3回の本協議会における協議内容を踏まえ学校運営の工夫・改善を図るとともに、今後の教育活動の一層の充実につながるよう令和6年度も学校運営協議会を開催してまいります。